

A A C
AICHI ARTS CENTER

アートを読む、あいちを読む

2016 / vol. 90
Winter

愛知芸術文化センター 情報誌

旅の記憶、創造の痕跡



ヴァルサン・クールマ・コレリ《バブ・オブ・ジ・アース》
撮影：港千尋 / あいちトリエンナーレ2016芸術監督

GAUGUIN

ポール・ゴーギャン(1848-1903)



ポール・ゴーギャン《自画像》(部分)
1885年、コペンハーゲン 油彩、カンヴァス
キンベル美術館
©Kimbell Art Museum, Fort Worth, Texas

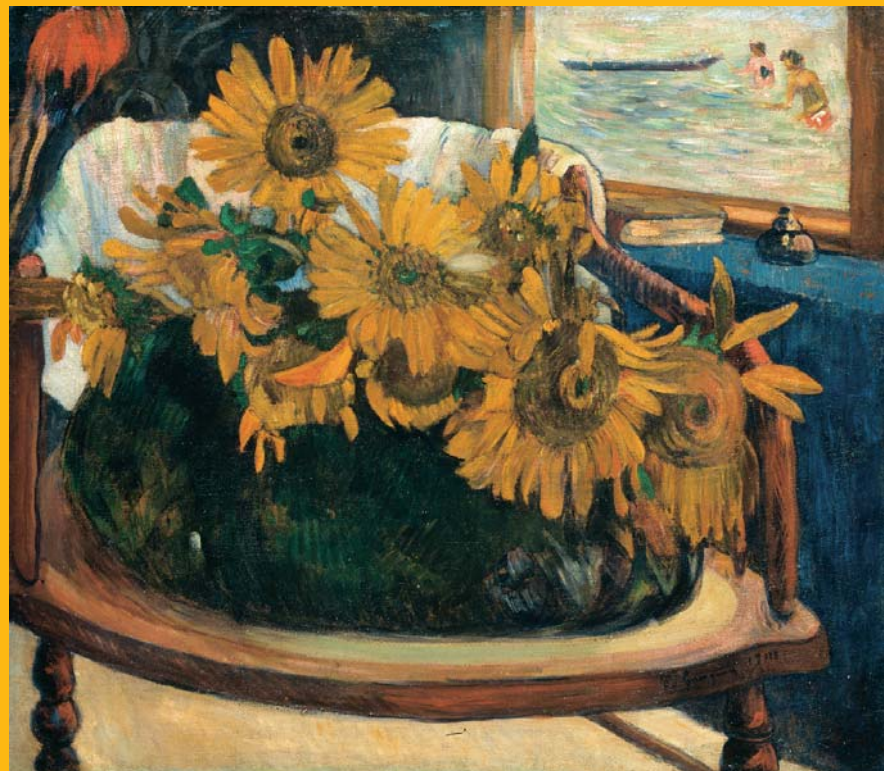
VAN GOGH

フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)

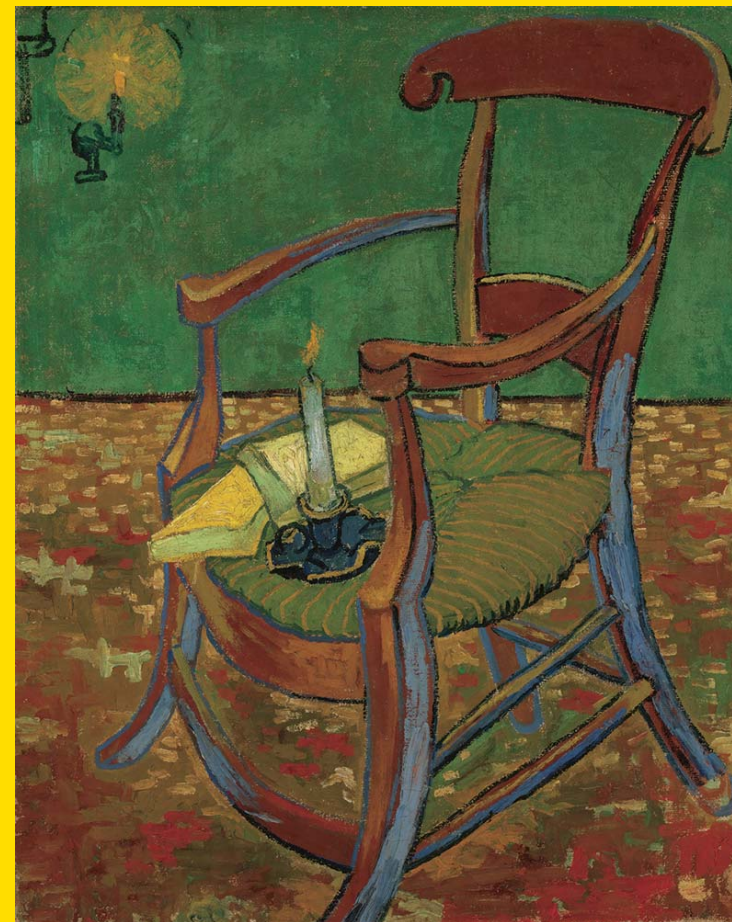


フィンセント・ファン・ゴッホ《自画像》
1887年4-6月、パリ 油彩、厚紙
クレラー=ミュラー美術館
©Kröller-Müller Museum, Otterlo

嫉妬、不安、そして葛藤……。 複雑な友情で結ばれた関係に 焦点を当てた日本初の二人展



ポール・ゴーギャン《肘掛け椅子のひまわり》
1901年、タヒチ 油彩、カンヴァス
E.G.ビュルレ・コレクション財団
©Foundation E.G. Bührle Collection, Zurich



フィンセント・ファン・ゴッホ《ゴーギャンの椅子》
1888年11月、アルル 油彩、カンヴァス
ファン・ゴッホ美術館(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)
©Van Gogh Museum, Amsterdam(Vincent van Gogh Foundation)

「黄色い家」での共同生活のためにそろえた家具のうち、ゆったりと座れる肘掛け椅子を敬愛するゴーギャンに差し出し、自分は簡素な薬座面の椅子を使ったファン・ゴッホ。この作品は、ゴーギャンがアルルに到着して5週目に着手された。肘掛け椅子の座面にその主を示唆する本と蠟燭が置かれており、肘掛け椅子が画面いっぱいには捉えられた様子から、ファン・ゴッホのゴーギャンへの親密度がうかがえる一枚。

ひまわりはファン・ゴッホとの思い出の花
パリに戻った後、タヒチに渡ったゴーギャンは、晩年にひまわりの連作に取り組み。ゴーギャンは、タヒチでは手に入らない種をパリの友人に送ってもらい、自宅の庭で栽培したという。「黄色い家」でファン・ゴッホがゴーギャンのために用意した肘掛け椅子を彷彿させる椅子に、ファン・ゴッホとの思い出の花であるひまわりを置いた作品からは、亡き友人への想いが伝わってくる。



▲オーヴェール=シュル=オワーズ
▲パリ

▲サン=レミ
▲アルル

ゴッホと ゴーギャン展

2017年 1月3日(火)~3月20日(月・祝)

愛知県美術館

10:00~18:00 ※金曜日は20:00まで

(入館は閉館の30分前まで)

休館日:毎週月曜日

[ただし1月9日(月・祝)、3月20日(月・祝)は開館]、1月10日(火)

一般1,500円 高校・大学生1,200円

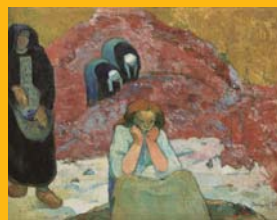
※前売・団体は各200円引き。 ※中学生以下は無料。



ポール・ゴーギャン
《タヒチの3人》
1899年、タヒチ
油彩、カンヴァス
スコットランド国立美術館
©Scottish National Gallery



フィンセント・ファン・ゴッホ
《タマネギの皿のある静物》
1889年1月初め、アルル
油彩、カンヴァス
クレラー=ミュラー美術館
©Kröller-Müller Museum, Otterlo



ポール・ゴーギャン
《ブドウの収穫、人間の悲慘》
1888年、アルル 油彩、ジュート
オードロップゴ-美術館
©Ordurupgaard, Copenhagen photo: Anders Sune Berg

出会い

1887年11~12月に、ロートレックやベルナルらと共に、ファン・ゴッホはパリのレストランに自作を展示した。この会場で、ひまわりが描かれたファン・ゴッホの作品をゴーギャンが称賛し、作品を交換したことをきっかけに、二人は親交を深める。翌年2月にアルルに移住したファン・ゴッホは、5歳年上のゴーギャンに、師としてアルルに来てほしいと手紙を通じて熱望する。



フィンセント・ファン・ゴッホ《収穫》
1888年6月、アルル 油彩、カンヴァス
ファン・ゴッホ美術館(フィンセント・ファン・ゴッホ財団)
©Van Gogh Museum, Amsterdam
(Vincent van Gogh Foundation)

ファン・ゴッホとゴーギャンの 出会いから別れまで

日本でもそれぞれ何度か開催されてきた「ゴッホ展」と「ゴーギャン展」。しかし、二人展として開催されるのは世界でも珍しく、日本では今後開催されることはまずないだろうと言われている。そんなファン・ゴッホとゴーギャンの二人展が、間もなく愛知県美術館で開催される。では、なぜこの二人なのか？それは、19世紀末に活躍した彼らが、いまなお世界中で愛される二大巨匠であるからというだけではない。

短い期間ではあるが、南フランスの町アルルで共同生活を送ったファン・ゴッホとゴーギャン。それは、ゆくゆくはこの地に芸術家のコミュニティの設立を願っていたファン・ゴッホからの誘いに、ゴーギャンが応じたものだった。彼らは「黄色い家」で寝食を共にし、互いの表現方法を試みるなど刺激し合うが、性格や芸術観の違いに加え、先に認められたゴーギャンへのファン・ゴッホの嫉妬や不安感から、わずか2カ月で共同生活は終わる。しかしながら、そこで関係が破綻したわけではなく、その後も互いに友情を抱き続けた。

取材・文・田中由紀子

Check!

上記で紹介した《収穫》と《ブドウの収穫、人間の悲慘》は、二人が自らの「最高傑作」と評した作品。ファン・ゴッホは小麦、ゴーギャンはブドウだが、収穫という同じテーマの作品が出品されるのも本展の見どころ。

Check!

自画像を多く描いたことでも知られるファン・ゴッホだが、自画像が多いのは、経済的にモデルを雇えなかったからでもあるという。本展でも彼の自画像が3点出品されるので、その表現方法の違いにも注目したい。



見本を眺め、糸の組み合わせを考える智司社長。編むと色が変わるので、生地カラーチャートとも見比べる。絵画全体のイメージから大胆な配色を導くのが松井ニットの魅力。



ゴッホとゴーギャン展の開幕に先駆け、愛知県美術館の所蔵するゴーギャン《木靴職人》を見学した智司社長。東京開催の初日にも再び本物を鑑賞。何度も色を見直したそうだ。



低速ラッセル織り機の説明を聞く松永。生産量は制限されても、低速機だからこそ独特のふんわりした風合いが実現する。速度は智司社長が長年の勘で調整しているのもスゴイ。



絹織物も少量ながら生産。絹糸の細さ、美しさに圧倒される。



編みあがった生地は、厳しい検品項目のもと専門スタッフが目と手でチェック。



ちゃぶだい 兄弟の小さな卓袱台は世界のアートとつながっている



ごく普通の居間が松井兄弟の作戦本部。「この部屋が好きなんだよね」と智司社長は微笑む。世界的な美術館のグッズも、この卓袱台の上で生まれた。

これが「ゴーギャンマフラー」完成品。

「きつかけは経済産業省も推進するジャパン・クリエイションや桐生テキスタイルプロモーションショーへの出品。そこでアメリカの美術館の目に留まり、今につながったんです」(智司さん)

松井家の初代は魚屋だったという。2代目の婿養子が、盛んになる絹紡すよ。中日ドラゴンズともぜひやりたいですね(笑)(敏夫さん)

なお、ゴッホとゴーギャン展の開催に合わせて、愛知県美術館ではゴーギャンの名画《木靴職人》とコラボしたマフラーを販売。展覧会で実物を観たら、きつと買いたくなるはず!

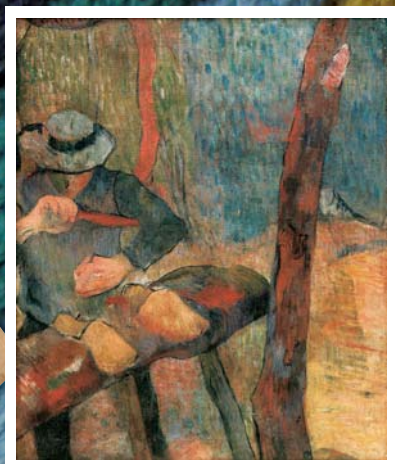
古くから織物で知られる群馬県桐生市。商店街から住宅街へと入った路地に「松井ニット技研」はある。会社の顔は、製作担当である松井智司社長と営業担当である松井敏夫専務の2兄弟。2009年に海外の美術館へと商品を卸して以来、松井ニットはアート界でも名高い存在となっている。

「愛知県美術館とはクリムト《黄金の騎士》でコラボレーションしたのが始まりでした。他にもプラド美術館や大原美術館、プロ野球の福岡ソフトバンクホークスや千葉ロッテマリーンズ、サッカーのガンバ大阪や大宮アルディージャなどと取引がありま

開幕間近の「ゴッホとゴーギャン展」で人気を集めるのであるラグッズに、色鮮やかなマフラーがある。群馬県桐生市の「松井ニット技研」で製作されるリブ編みマフラーは、世界的なヒット商品だからだ。実に70歳を超える2兄弟、松井智司さんと松井敏夫さんの営む松井ニットは、どうして世界とつながったのか。おなじみ広報担当の小出充訓に加え、広報・マーケティンググループでミュージアムショップを担当する松永典子が同社を訪ねた。

績を見て繊維業に転身。第二次世界大戦後、智司さんの代で編物業を本格始動させた。しかし、それからも波乱の連続。ニクソン・ショックによる輸出減で経営が悪化したかと思えば、アパレル産業の隆盛で三宅一生や山本寛斎、森英恵ら日本を代表するファッションブランドと契約。センスや技術を磨いた。中国などの台頭で低価格競争が激化する。アパレル業界は下降線。そんなおりアメリカの美術館と契約が決まり、海外進出に活路を見出した。そして2005年、自主ブランド「KNITTING INN(ニットイング・イン)」を設立。今では、マツイ・カラー、マツイストライプと呼ばれるほど業界を席巻している。

「フランスのポンピドゥー・センターでカンディンスキーを観たのが創作の出発点。センターはできたばかりで、1ドル1360円の時代でした。私はパウハウスが好きなんです。工芸と芸術の融合は必要。そこには芸術・伝統・感性が入ってきますよね」(智司さん)



ポール・ゴーギャン《木靴職人》1888年 愛知県美術館



ゴッホとゴーギャン展

1/3 (土) 3/20 (日)



株式会社 松井ニット技研
住所：群馬県桐生市本町4丁目甲85番地
電話：0277-46-4183
交通：JR「桐生」駅より徒歩15分

詳しくは



NHK交響楽団
Photo: 中川幸作



アルベナ・ダナイロヴァ



ヘスス・ロベス・コボス
©Georges Braunschweig-GM-Press

20世紀イタリアの作曲家レスピーギの 色彩感ほとばしる世界を！

毎回大好評のNHK交響楽団定期演奏会で、ちよつとめずらしい企画が実現。今回は、20世紀のイタリアを代表する作曲家オットリーノ・レスピーギの3作品を集めた「オール・レスピーギ・プログラム」なのだ。指揮者には、世界のオペラ劇場・オーケストラでタクトを振ってきたベテランであり、レスピーギでも定評のあるヘスス・ロベス・コボスを迎え、万全の態勢で披露されるから楽しみ。

レスピーギといえば交響詩「ローマ3部作」が有名だが、その中から「ローマの噴水」「ローマの松」に続く最後の作品「ローマの祭り」がメインで演奏される。他に「教会のステンドグラス」も、時間こそ30分ほどながら4楽章の構成で、聴きごたえ十分。この2曲には圧倒されること間違いなしだ。

また、ウィーン・フィルハーモニー交響楽団からヴァイオリニストのアルベナ・ダナイロヴァを迎え、「グレゴリオ風の協奏曲」も演奏。

Ottorino Respighi

予定プログラム

- ◆レスピーギ
- ◆グレゴリオ風の協奏曲
- ◆教会のステンドグラス
- ◆交響詩「ローマの祭り」

彼女はウィーン・フィルで初めて女性コンサートマスターを務める才媛だけに、その手腕にも注目してほしい。

なお、来年度は愛知県芸術劇場コンサートホールが改修に入るため、N響が当劇場に登場するのは1年お休み。次回は2年後となるので、今度の公演をお見逃しなく！

NHK交響楽団定期演奏会

(愛知県芸術劇場シリーズ)

2017年1月21日(土) 15:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

SS席13,000円 S席10,000円 A席8,000円

B席6,500円 C席5,000円(学生2,500円)

D席4,000円(学生2,000円) 車椅子席 6,400円

※学生料金は25歳以下対象(要証明書)。

※未就学のお子さまは入場できません。

NHK交響楽団定期演奏会に先がけて、11月27日にN響奏者の栗田雅勝さんによる公開レッスンの開催を予定しています。学生さんからのアツい想いに満ちた申込書を受け取るたびに、私もやる気が湧いてきます！(企画制作グループ: 町田優衣)



石丸由佳◎Yuka Ishimaru

新潟県出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。文化庁在外研修派遣員としてドイツに留学。2010年、シャルトル国際オルガンコンクールにて優勝。一躍脚光を浴び、翌年にはヨーロッパ10カ国以上にわたるコンサートツアーを成功させた。以降、国内外で活躍し、パイプオルガン普及のため他ジャンルや他の楽器との共演も積極的に行っている。



山浦雅也

有村純親

SEASON'S GREETING

MERRY CHRISTMAS

予定プログラム

- ★J.S.バッハ
幻想曲 ハ長調 BWV 570
- ★2つのヴァイオリンのためのソナタ
ハ長調より第1楽章
- ★暁の星のいと美しきかな
- ★高き天よりわれは来たり
- ★おお愛する魂よ、汝を飾れ
- ★2つのヴァイオリンのための協奏曲
ニ短調 BWV 1043
- ★E.モリコーネ(山口景子 編曲)
映画『ニュー・シネマ・パラダイス』メドレー
- ★ワーグナー
(ジークフリート・カルク=エーレルト編曲)
『ニルンベルクのマイスター・ジnger』
前奏曲

Christmas Organ Concert with Saxophone Duo

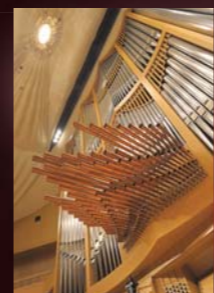
Photo: 中川幸作

今年度は愛知県芸術劇場オルガンカレイドスコープ、THE バッハをシリーズ公演中につき、冬の恒例コンサート「クリスマスはオルガンだ」もJ.S.バッハを軸にしたプログラムで。次代を担うオルガニスト・石丸由佳を迎え、さらにサクソフォーンの山浦雅也と有村純親が共演する。

「サクソフォーンとの共演は石丸さんからのご提案なんですけど、当劇場でも過去にやっていた、相性が良かったんですね。ただ、また同じことはしたくないので、今回はサクソフォーンを2本入れることにしました。オルガンと音量のバランスもとりにやすくなりますしね」とは、水野学プロデューサー。

なお、この2種類の楽器はバッハ「2つのヴァイオリンのための協奏曲」、映画「ニュー・シネマ・パラダイス」メドレーほかで共演する。

また、この機会にサクソフォーン・デュオ



愛知県芸術劇場 パイプオルガン

カール・シュッケオルガン
製作所(ドイツ)製

93ストップ

手鍵盤5段ペダル付

パイプ本数 6,883本

クリスマスはオルガンだ! 2016

12月23日(金・祝) 15:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

全席指定2,000円(学生1,000円)

※学生料金は25歳以下対象(要証明書)。

※未就学のお子さまは入場できません。

デュオでも面白い趣向が準備された。バッハと3人の作曲家それぞれによる「コラール(讃美歌)」の聴き比べだ。同じコラールが原曲の3作品を、バッハとレーガー、バッハと、バッハ、バッハとブラームスという具合に並べて演奏。どんな風に聴こえてくるのか、お楽しみに！

もちろん、オルガンを存分に味わえることは言うまでもない。特にワーグナー「ニルンベルクのマイスター・ジnger」は、当劇場が誇る日本最大級のオルガンのフルスペックを生かせる曲。その音色を聴いたことがない人は、雰囲気もびつたりのクリスマスシーズンにこそぜひ体験してみてください。

次代を担う美しきオルガニスト登場 コラールの聴き比べ企画も！



ここ最近、パイプオルガンの取材を何件か立て続けに受けました。記事や映像をあちこちで目にしていただくかも知れません。来夏からの改修工事でコンサートホールが一時休館する前に、ぜひ壮大な音色を聴きにお越しくださいね。(舞台技術グループ: 井戸亜由巳)



Column 02
記憶に残る鮮やかな演出

2005年のシンフォニック・オペラ「白鳥」、2008年の「ファルスタッフ」、2012年の「ランメルモールのルチア」と、当劇場プロデュースのオペラにも縁の深い売れっ子・岩田達宗が演出を手掛ける。シンボリックな美術も印象的な岩田演出は、視覚にも鮮やかな記憶を焼きつけるはずだ。山田も「想いと知識と考え方が凄い。『カルメン』について奥の奥まで見通されていて、今回ほぼ彼のプランに沿う形なんです」と語っている。



岩田達宗
©大阪音楽大学

The Fujiwara Opera
Carmen

Column 03
ご当地ゆかりのキャストも

愛知ゆかりの顔ぶれはキャストにもいる。ドン・ホセ役の笛田博昭、衛兵隊長スニガ役の伊藤貴之はともに名古屋芸術大学音楽学部声楽科の出身。特に山田が「ダイナミックな方」と語った笛田は、カルメンに翻弄される男を演じつつ魅惑のテノールを響かせる。ちなみに、前述の伊藤晴は三重県出身。東海勢の活躍にもご期待を!



笛田博昭 (ドン・ホセ役)
伊藤貴之 (スニガ役)
Photo: Taikan Usui

Column 01
「カルメン」基礎知識

ジョルジュ・ビゼー作曲、1875年にパリのオペラ・コミック座で初演。物語の舞台はスペインのセビリア。タバコ工場で働く魔性の女カルメン、軍隊の衛兵ドン・ホセ、闘牛士エスカミーリヨ、ホセの婚約者ミカエラが複雑な恋愛模様を展開する。今回は、セルビア出身でメトロポリタン・オペラにもデビューしたミリヤナ・ニコリッチ、藤原歌劇団創立80周年記念公演「ラ・ボエーム」のムゼッタ役で飛躍した伊藤晴らが出演。



伊藤 晴 (ミカエラ役)
ミリヤナ・ニコリッチ (カルメン役)
Photo: Katsuhiko Kimura

次代を担う若きマエストロ
山田和樹が
オペラの世界に飛び込む



山田和樹 Kazuki Yamada

2009年第51回フザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。これまでにトレスデン国立歌劇場管、パリ管、フィルハーモニア管、ベルリン放送響、バーミンガム市響、チェコ・フィルなど各地の主要オーケストラでの客演を重ねている。モンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、スイス・ロマン管弦楽団の首席客演指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団正指揮者などを務めている。東京藝術大学指揮科で小林研一郎・松尾葉子の両氏に師事。ベルリン在住。

次代のスター指揮者として熱い視線を集める山田和樹が、藤原歌劇団のニュープロダクションによる「カルメン」で初めてオペラを振ることに！ サイトウ・キネン・フェスティバル松本では小澤征爾の代役を見事に果たし、知名度も急上昇。クラシック界で最も信頼と期待を寄せられる山田が初オペラをどのように迎えるのか、心境や構想を尋ねた。

——初オペラ実現までの経緯を教えてください。

「オレステイア」などオペラ仕立ての舞台は指揮していますが、本格的にオペラに取り組むのは初めてです。藤原歌劇団から「フランスもの」という要望があり、「マノン」や、僕自身いつか必ずやりたいと思っていたドビュッシーの「ペレアスとメリザンド」などが挙がったのですが、ぜひ王道の作品を、ということで「カルメン」に決まりました。こういう言い方をするとビゼーに失礼かもしれませんが、ビゼーは「カルメン」を書くために生まれてきたようなところがありますよね？
「アルルの女」
など管弦楽を聴いても、同じ人が書いたのかなと思うほど。



「交響曲ハ長調」もまるで違う世界ですよ。『カルメン』の情感あふれるエモーショナルなメロディ、独特なハーモニーは、同一人物とは思えない書き方なんです。
——ところで、山田さんはカルメン派ですか、ミカエラ派ですか。
面白さで言えばカルメン、清純さで言えばミカエラかな。伊藤晴さんのミカエラはキュンとくるものがあるはず。ミカエラって難しい役回りですよ。単に清純なだけじゃない感じがするんです。カルメンとの対比ではそう映りますが、ミカエラだって人間。執着心は強い(苦笑)。カルメンは熱しやすく冷めやすいので「アンタなんか」とすぐ言ってしまいますが、ミカエラは絶対言わない。思ったにしても、(許嫁としての)自信もあるでしょうけど、忍ぶところがある。そのように役の膨らませ方は、さまざま捉え方があって感じています。
——ホセは好きですか？
「カルメン」という作品がなぜ共感を呼ぶかという、誰の中にもある心理を投影しているからですよ。男なら誰でも恋に身を焦がし、おかしなことになっちゃうという……、ホセ的なものがあると思います。そしてカルメンとミカエラという相反するふたりが表現する、男を惑わしたり従順だったりというふたつの側面は、すべての女性を投影しているところがある。そうでないと、これだけ共感を呼ぶオペラにならなかったはず。人の深層心理にすごくフィットしているからこそ、愛されているのだと思います。
——エスカミーリヨは……？
嫌いです。僕の中にはエリートへの反抗心があるんです(笑)。「プロジエクトX」などで名もない人たちのヒーロー性がうたわれ、みんなが主役になれる時代。だから今は、昔のスターやエリートへの反発がある時代とも言えるんじゃないかと思えます。ホセとエスカミーリヨの対比は、身分の違いでもあるし人種の問題にもなっていますけど、それは生まれながらにして抗えないものに対する反発だと感じています。

り名古屋フィルハーモニー交響楽団ですか。

はい。でも、最初は「動物の謝肉祭」のピアノを弾いたんですよ。それが僕の愛知初舞台、名フィルデビューです。また僕にとって愛知は、音楽が始まった場所です。父の転勤で、幼稚園の頃から2年間は尾張旭市、2年間は名古屋守山区に住んでいました。愛知に来ていなかったら音楽と出会ってなかったら、指揮者にもなっていなかったと思えます。古くは先祖が住んでいて、平和公園には山田家のお墓もある。山田家のルーツは愛知にたどりつきます。ですから愛知には、行くといふより帰る感覚です。

藤原歌劇団公演「カルメン」

2017年2月11日(土・祝) 14:00
愛知県芸術劇場大ホール
S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円
C席5,000円 D席3,000円
※ヤング・フレッシュマンチケットあり。
※A・B・C席半額、25歳以下対象、枚数限定(要申込)。
※障がい者割引あり。
※S・A・B席20%割引、要問合せ、枚数限定。
【お問合せ】日本オペラ振興会チケットセンター
TEL: 044-959-5067(平日10:00~18:00)



伊藤貴之さんも名古屋芸術大学の出身。同大学院在学中に当劇場プロデュースオペラ「椿姫」(2003年)でデビュー後、岩田達宗さん演出の「ランメルモールのルチア」(2012年)やガラコンサートなどにご出演いただいています! (広報・マーケティンググループ: 小出充訓)



今や藤原歌劇団を代表するテノール歌手となった笛田さん。なんと初めて衣裳を着て人前で歌ったのが、当劇場大ホールでの名古屋芸術大学のオペラ公演「カルメン」のホセだったそうです。(プロデューサー: 水野学)



劇場探検ツアー.....

8/3
愛知県芸術劇場
コンサート
ホール

毎年恒例好評! 当劇場のコンサートホールを使って「劇場探検ツアー」が行われた。おなじみの劇場スタッフ、ジョニー隊長&ジョニー副隊長の先導のもとコンサートホールのあちこちに潜入。ステージの上から客席を眺めたり、指揮者をはじめとする出演者の楽屋をのぞいたり、普段できないことの連続にワクワク&ドキドキ。また特別に“反響板”も至近距離で見学。音の響きを良くするため舞台上方に設置されている反響板は、大人でも存在に気づく人は少ないので、コレはちょっと自慢できる!? 終了後にはオリジナル認定証をゲットし、たくさんのコンサートホール博士が誕生した。

ナニコレ!?
おもしろ〜い!



ジョニー隊長&
ジョニー副隊長

日生劇場ファミリーフェスティバル2016 不思議の国のアリスのクラシックコンサート 「アリスの作曲★大作戦」

8/6
愛知県芸術劇場
大ホール

子どもたちが楽しんでクラシック音楽に触れられるよう、お芝居を盛り込んだコンサート。不思議の国のアリスが、地球存亡の危機に直面!? 地球を救うため、みんなでメロディやリズムなど決めながら音楽を作り上げ、最後は会場全体で大合唱に! 劇中にはモーツァルト「トルコ行進曲」やオペラ「カルメン」より前奏曲ほか、名曲がちりばめられ、物語を追いかけるうちクラシック音楽に触れられる趣向。指揮者の岩村力と愛知県室内オーケストラもお芝居に参加して物語を彩る。なお、あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ「ホフマン物語」で絶賛を浴びた演出家・粟國淳、ラジオパーソナリティとしても活躍する人気作曲家・ピアニストの加藤昌則が共同で構成を手掛け、五感をフルに活かして観られる舞台となった。

ファミリー・プログラム REPORT

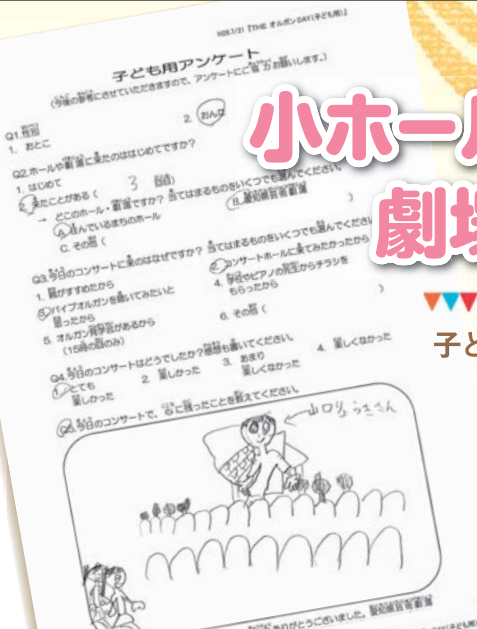
おいしい おかしい おしばい..... 「わかったさんのクッキー」

8/23・24
愛知県芸術劇場
小ホール

寺村輝夫の同名童話を、演劇カンパニー「チェルフィッチュ」の岡田利規が脚本化して演出。さらに現代美術作家の金氏徹平が舞台美術を手掛け、シンガーソングライターの前野健太が劇中歌を作曲。国際的に活躍する精鋭たちのコラボレーションによってカラフルでポップな劇世界が出現した。小道具として登場する日用品がいく通りにもいろんなものに見立てられ、空間もクリーニング屋さんになったりマンションになったり、無限の想像力を刺激しながら劇は進行していく。円形舞台をぐるりと囲む形で座った子どもたちは、時おり劇に巻き込まれ、はにかんだり困惑したり。後ろの方で怖々観ていた子が、徐々に前へ前へと出ていく様子も面白かった。劇が終わると、さっきまで小道具・装置だったモノで遊んでもOKという嬉しい展開。子どもたちだけでなく、大人も遊びたかった.....はず!



Photo: 羽鳥直志



小ホールから大ホール、舞台裏まで 劇場は、僕たち、私たちのもの!

子どもたちをはじめ、たくさんの家族が鑑賞&参加したファミリー・プログラム
楽しかった夏の思い出を
ちょっと振り返ってみました.....

THE オルガンDAY..... 〜ワンコイン・45分で広がるオルガンの魅力〜

7/21
愛知県芸術劇場
コンサート
ホール

当劇場のコンサートホールにある日本最大級のパイプオルガンの音色を多くの方にもっと聴いていただくため、料金500円・公演時間45分という気軽な形式のオルガンコンサートを毎年開催している。「幼児向け」の11時の回と、「子ども向け」の15時の回に分かれているので、コンサートホールデビューのお子さまにも安心の公演だ。オルガンの代名詞的存在パッサムも聴ければ、アニメ音楽などを一緒に歌うこともできて、オルガンの魅力を存分に味わえる。「子ども向け」の終演後にはオルガン見学会を実施。子どもたちは大きな鍵盤やペダル、何千本もあるパイプに驚きつつ興味津々。子どもたちの記憶に残り、大人になってもまた来てくれることを願いたい。



下にも
鍵盤?

Photo: 中川幸作

..... こんにやく座によるワークショップ オペラ「魔笛」をつくろう!

7/23・24
愛知県芸術劇場
大ホール

国内外で活動するオペラシアターこんにやく座が、当劇場主催のワークショップに初めて登場。あいちトリエンナーレ2016プロデュースオペラ「魔笛」とも関連する形で、モーツァルト「魔笛」の世界を子どもたちと共有した。参加したのは小学校4年生から6年生の子どもたち。こんにやく座の“歌役者”でもある梅村博美の指導のもと、子どもたちは合唱レッスンをしたり舞台美術を作ったり、オペラ制作の表も裏も少しずつ体験した。最後はオペラワークショップ恒例の発表会。保護者の方々に前に、自分たちが作った装置に囲まれながら「魔法の笛」の物語を歌や演技で表現した。ミニ公演とはいえ、緊張感や一生懸命な姿は本番そのもの。すべてを終えた少年少女たちの顔にも充実感が浮かんだ。



Photo: 羽鳥直志



劇場探検ツアーは今までコンサートホールで開催していましたが、来年度は心機一転、探検地を大ホールに移します。新たな探検先にも秘密がいっぱい。参加者募集は来年度になってからですが、どうぞ楽しみにお待ちください! (企画制作グループ: 村松里実)



「アリスの作曲★大作戦」の公演当日、客席にはいつもよりちょっとおしゃれたお子さんたちも。劇場へのお出かけを楽しんでくださる姿、とっても嬉しいです。もちろんカジュアルファッションも大歓迎ですよ。(企画制作グループ: 吉安恵子)

60万人以上が観た、驚いた、アートの虹

あいちトリエンナーレ2016が10月23日に閉幕した。テーマ「虹のキャラヴァンサライ」を具現化した色鮮やかな作品の数々は県内を彩り、世界中の多様な表現が人々を驚かせた。アートはまさに虹のごとき架け橋となり、表現者と鑑賞者、街と人、国と国とを出会わせてくれたのだ。本誌では、そんな作品を振り返ってみる――



ジョアン・モデ〈NET Project〉豊橋 子ども未来館(ここにこ)
Photo: 港 千尋

国際展

絵画、彫刻、インスタレーションなど多様な表現には多様な色もあふれ、各会場には笑顔もあふれた。親子で感想を語り合ったり、大切な人と写真を撮り合ったり、2年配の夫婦が仲睦まじく来場したり。老若男女が楽しめる穏やかで温かな展覧会となった。



ジェリー・グレッツインガー〈Jerry's Map〉 Photo: 菊山義浩
六つ切サイズの集合体である架空の都市の地図。真ん中に立つ男性はアーティストご本人!

現代美術



大巻伸嗣〈重力と恩寵〉 Photo: 怡土鉄夫
豊橋・PLAT会場に展示された作品からは直視できないほど強い光が放たれ、壺の模様と影の美しさに目を奪われてしまう。昼と夜とで味わいが変わるのもステキ。



田島秀彦〈6つの余地と交換可能な風景〉
Photo: 怡土鉄夫
愛知芸術文化センター11階の展望回廊の展示風景。外から見てもキレイが目立った。



関口涼子 + フェリペ・リボン〈VIVIER〉 Photo: 怡土鉄夫
岡崎・六供会場の石原邸に展示。色とりどりの瓶の中にはスパイスが入っていて、蓋を開けて匂いを嗅ぐと、一瞬にして異国へと嗅覚の旅に……!?



竹川宣彰〈新・猿蟹合戦 戦争と戦争の間に浮かぶ宇宙船より〉 Photo: 菊山義浩
ユーモアと美学の具合が絶妙で、愛知芸術文化センターの展示の中で高い人気を誇った。



西尾美也+403architecture [dajiba]〈ハプローフ〉 Photo: 菊山義浩
公共のワードローブとして他者の服を借りたり、リメイクしたりする参加型が大ウケ。

パフォーマンス

今回は、レインボーウィークスと銘打ち、公演を会期後半に集中。1日4公演をハシゴした人たちは、多様な表現を全身に浴びてクラクラ!? 観る機会の希少なブラジルのアーティストの作品や、まちなかでのパフォーマンス、フラメンコや能など伝統芸術の革新的な形まで目撃でき、大満足!



Co.山田うん「いきのね」 Photo: 羽鳥直志
奥三河の芸能神事・花祭へのオマージュは、土の舞台上で時に激しく時に厳かに捧げられた。



「虹のカーニバル」 Photo: 羽鳥直志
サンバ、フラメンコ、日本舞踊、ストリートダンスなど、ジャンルを横断した、プロ・アマ問わずメンバーが集結。会場全体が一体となって盛り上がった。

プロデュース オペラ

作曲・モーツァルト×演出・勅使川原三郎の時空を超えたコラボレーションは、意外なほど明るく大らかで未来志向の舞台に。17人のダンサーが踊る趣向も異例なら、衣裳も大胆かつユーモラス。大小のリングを使った舞台美術も象徴的で、観客の想像力を優しく刺激した。



アートティーチング・トイ体験の様子 所蔵: Victor D'Amico Institute of Art

普及・教育

子どもだけでなく大人もハマってしまうプログラムが充実。アートの基礎である線や色、音などへの反応を敏感にするダミコルームのアートティーチング・トイや、キャラヴァンファクトリーでの自由な作業に没頭する子どもも続出して、それを見る側も気分ホッコリ。



カンパニーDCA / フィリップ・ドゥクフレ「CONTACT」 Photo: 南部辰雄
現代サーカスに映像、音楽、ダンス……、奇才ドゥクフレの集大成的ミュージカルに鳥肌!



イスラエル・ガルバン「FLA.CO.MEN」 Photo: 羽鳥直志
進化するフラメンコ。新旧代表作を披露した革命児ガルバンは、男も女もトリコに♡



あいちトリエンナーレ2016プロデュースオペラ「魔笛」 Photo: 小熊 栄



キャラヴァンファクトリー体験の様子



シーロ・ゲーラ「彷徨える河」 2015
©Ciudad Lunar Producciones



エクシネマ「都市と都市のあいだ」 2015
©Pip Chodorov, Seoul

映像プログラム
ビジュアルアートの潮流により、はずせない映像部門。楽しいアニメーションの作品群や、20名以上の実験映像作家とともに制作したエクシネマの手法などが印象鮮やか。上映は愛知芸術文化センターを中心に、豊橋市公会堂や岡崎の松應寺、地下鉄伏見駅でも行われた。

Check! 「夢みる人のクロスロード 芸術と記憶の場所」(港 千尋編/平凡社刊)は、「旅と創造」をめぐるエッセイを集めた公式コンセプトブック。18人の執筆者が寄せた「ピース」が合わさると、あいちトリエンナーレ2016のかたちが見えてきます。ぜひ一読を! (あいちトリエンナーレ2016書籍出版担当: 若山満大) AAC | 11

12 | AAC Check! 74日間にわたる現代アートの祭典が閉幕を迎えました。皆様、ご来場ありがとうございました! 全119組のあいちトリエンナーレ2016参加アーティスト情報を網羅した、公式カタログも好評発売中です。お手に取って、この夏の「旅」を思い起こしてくださいね。(あいちトリエンナーレ2016広報担当: 工藤千愛子)

慣れれば結構くせになる…かも

上野 茂(ナゴヤ劇場ジャーナル)

バッハから受け継がれる、人間と宇宙の共振

水野みか子(作曲家・名古屋市立大学大学院教授)

演 劇とはなんぞや…。第15回AAF戯曲賞受賞作「みちゆき」(作・松原俊太郎、演出・三浦基)を見て驚いた。同賞は今回から「戯曲とは何か?」を新たなコンセプトとして作品を審査。その初の受賞作品である。

舞台上にはスクリーン。7人の出演者はその後ろに立ち、客席からはシルエットしか見えない。面食らったのは彼らの放つ「せりふ」。奇妙なイントネーションが付いているので、最初は何を言っているのかも分からなかった。

しかも、その奇妙な「せりふ」は会話体ではなく、つながりがない。物語性は「一切排除されている。これは初めて現代音楽を聴いた時の戸惑いに似ていると思った。

「埋めてくれ、焼いてくれ」と登場人物たちは訴える。どうやら彼らは地震や津波、放射能汚染の被災者の魂であるらしい。

終盤、すべての照明が落ち、ホールが闇に包まれた。不安はなく、温かな安堵感に包まれた。さまよえる魂が癒されるような気がした。

出演は、演出の三浦が代表を務める京都の劇団「地点」。三浦は「一



Photo: 羽鳥直志

第15回AAF戯曲賞受賞記念公演「みちゆき」
9月9日~12日
愛知県芸術劇場小ホール

ド イツのオルガニスト、エドガー・クラップは、ヘルムート・ヴァルヒヤやマリール・クレール・アランといった20世紀の巨匠を継ぐ世代として、正統的バッハ演奏とその教育に大きな功績がある。今回の演奏会でも、前半はバッハの「前奏曲とフーガ ニ長調」「トリオソナタ第5番 ハ長調」「バスカリアとフーガ ハ短調」、後半はボエルマン、ヴェイエルヌ、レーガールの作品を並べて、バッハから19世紀後半のロマンチズムへと継承される深淵な西欧精神をたつぷり聞かせた。

フーガにおいて執拗なほど繰り返される主題は、オルガンの微妙な音色と強弱によつてくっきりと描き分けられ、異なる和声的・対位的脈絡において玉虫色に輝いた。「トリオソナタ」では、ペダルのダイナミックな動きが、人間の身体と宇宙との共振を感じさせる。

ボエルマンの「ゴシック組曲」とヴェイエルヌの「月の光」では、優美な響きのヴァリエーションによつて幻想的な世界が広がり、レーガールの「ハッバ(B・A・C・H)の名による幻想曲」とフーガ」では再び厳格な主題操作が圧倒した。バッハの名がホール全体



Photo: 中川幸作

に充滿していくと、ことさらにオルガンという楽器の威力が光ったが、その一方で、現代に生きるクラップの暖かで誠実な人間性が、慈しむようなフリーズ作りからはっきりと伝わってきた。

Edgard Klapp オルガンスペシャルコンサート

10月20日
愛知県芸術劇場コンサートホール

Check!



「みちゆき」はAAF戯曲賞受賞作品。今年度のAAF戯曲賞の公開審査会は12月11日(日)です! 公開審査会はどこでも入場できます。インターネットでの中継も行うので、遠方の方もぜひ大賞・特別賞決定の瞬間にお立ちください。(プロデューサー: 山本妻子)

「大村知事と語る会」

9月20日、愛知県庁本庁舎・正庁において平成28年度第1回「大村知事と語る会」が開催された。大村秀章愛知県知事を囲む懇談会で、今回のテーマは「芸術・文化の振興―「芸術・アート」のあいち―」。当地の芸術・文化に携わる様々な立場の7人が出席して、大村知事に活動内容や現状、課題などを報告。さらに愛知県として取り組むべきことは何か、未来に向けての提言などを行った。その中には、愛知県芸術劇場インターン経験者の加藤絢香さん、弊誌「AAC」の編集スタッフ・小島祐未子さんの姿も。

当日は「あいちトリエンナーレ2016」の会期中。また、その後も10月に「第31回国民文化祭・あいち2016」、12月には「第16回全国障害者芸術文化祭あいち大会」と、大きな文化イベントが目白押しで、愛知にとって「芸術・アートの年」となるだけに、それぞれのイベントにも関連づけながら活発な意見が交換された。



からくりロボットの「ブンゾー」
愛知県の文化事業の
マスコットです。

前列左から、寺田恭子さん(名古屋短期大学 教授)、大村秀章知事、西川千雅さん(日本舞踊西川流四世家元)、稲波伸行さん(株式会社RW 代表取締役)、後列左から、斉と公平太さん(現代美術作家)、小島祐未子さん(編集者・ライター)、加藤絢香さん(愛知県立芸術大学 音楽学部作曲科4年生)、堀田勝彦さん(堀田商事株式会社 代表取締役)

愛知県芸術劇場小ホールの休館に伴う利用休止期間と受付再開時期について

お知らせ



愛知芸術文化センター改修工事に伴い、愛知県芸術劇場小ホールは一時休館いたします。利用可能時期は、休館期間終了後となります。ご不便をおかけしますが、今後も安全で快適にご利用いただくための改修工事ですので、ご理解とご協力をお願いします。

利用休止期間

平成28年11月1日(火)から平成29年10月13日(金)まで

利用可能時期

平成29年10月14日(土)以降

受付再開時期(受付初日)

- ① 3日以上連続利用: 平成28年10月以降の各月の受付初日(利用希望日の属する月の12カ月前の受付初日から2カ月前の月の末日まで)
- ② 2日以内利用: 平成28年11月以降の各月の受付初日(利用希望日の属する月の11カ月前の受付初日から2カ月前の月の末日まで)

編集後記



広報・マーケティンググループ: 小出 充訓

8月11日から74日間にわたって開催した「あいちトリエンナーレ2016」が閉幕しました。本誌通巻87号から、4号連続で表紙を飾ってきた港千尋芸術監督が撮影された写真も、インド、フランス、豊根村と回り、愛知芸術文化センターで完結です。トリエンナーレは終わりましたが、私たちの旅はその記憶と共にずっと続いていくんでしょうね…。なんてちょっとカッコよく言ってみました。芸文センターは年末の公演や年明けの「ゴッホとゴーギャン展」に向けて大忙しです〜笑。

愛知芸術文化センター
情報誌 AAC

通巻90 2016年12月号

発行: 愛知県芸術劇場
(公益財団法人 愛知県文化振興事業団)
印刷: 駒田印刷株式会社
デザイン: 江利山浩二(KINGS ROAD)
編集: 小島祐未子(家鴨の編集舎)



FLOOR GUIDE

開扉：9:00 休館日：第1・第3月曜日(6月は毎週月曜日)、年末年始

- 総合案内
- レストラン
- 喫茶店
- 公衆電話
- AED
- やさしいトイレ
- 赤ちゃんコーナー
- トイレ
- 連絡通路有

12F アートスペースA~H
屋外展示スペース

(11F) 展望回廊

10F 美術館(所蔵品・企画展示室)
屋外展示スペース
ミュージアムショップ

(9F)

8F 美術館(ギャラリー)A~J

(7F)
6F 回遊歩廊
(5F)

4F コンサートホール

(3F)

2F 大ホール
西玄関・南玄関 オアシス21連絡橋 NHKビル連絡口

1F アートライブラリー
正面玄関

B1 小ホール 改修工事中
防災センター

B2 アートプラザ アートスペースX
リハーサル室
オアシス21地下連絡通路

B3 B4 B5 駐車場(アートパーク東海)

INFORMATION

「公衆無線LANサービス」スタート!



センター内(一部を除く)に無料公衆無線LANサービス「Aichi Free Wi-Fi」を導入しました。スマートフォンやタブレット端末をはじめとする、お手持ちの無線LAN(Wi-Fi)対応機器から快適にインターネット接続をご利用いただけます。(対応言語) 日本語、英語、韓国語、中国語(繁体字・簡体字)、ポルトガル語の6言語

◎愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス

<http://www.aac.pref.aichi.jp>

◎愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド

☎ 052-972-0430 (月曜定休/祝休日の場合、翌平日)

チケット ◎チケットぴあ

の主な取扱先 **☎ 0570-02-9999** (サークルKサンクス、セブン-イレブンでも購入可)

◎アイ・チケット

☎ 0570-00-5310 (祝日を除く月曜~土曜 10:00~17:00)

◎名鉄ホールチケットセンター

☎ 052-561-7755 (10:00~18:00)

※団体割引、車椅子席等については劇場へお問い合わせください。



アクセス

[公共交通機関]

- 名古屋市営地下鉄東山線または名城線「栄」駅
下車 徒歩5分
- 名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩5分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

[自動車]

名古屋高速東新町出口から3分

[駐車場]

有料駐車場「アートパーク東海」
(愛知芸術文化センター地下3・4・5階 約500台)



愛知芸術文化センター
AICHI ARTS CENTER

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

TEL(052)971-5511(代表)

<http://www.aac.pref.aichi.jp>



お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ

TEL:052-955-5506(直通) FAX:052-971-5541 e-mail:mkt@aac.or.jp

愛知県芸術劇場メンバーズ 登録無料

愛知県芸術劇場
メンバーズって、
なに?

愛知県芸術劇場が主催する公演のチケットを便利にお求めいただけるサービスです。
インターネットで、全国どこからでも、購入可能!
チケットの発売や公演の最新情報をメルマガでお知らせします。

どんないいことがあるの?

- オンラインチケットサービス** 24時間、インターネットでチケットが買える!
- 買い忘れなし** チケット発売直前にはお知らせメールが届くので、買い忘れも回避。
- 先行発売** 劇場主催公演のチケットがいち早く買える、先行発売を実施!(一部公演を除く)
- クレジットカードOK** インターネットならお支払いは、クレジットカード決済もOK。(センター内プレイガイドはカード払い不可)

引取りも便利 チケットの引取りは、全国のセブン-イレブンかセンター内プレイガイドにて。

ポストにお届け ご希望の方には、主催公演のチラシや愛知芸術文化センター情報誌「AAC」をお届けします。

登録するには?



☆チケットの取扱いは、愛知県芸術劇場の主催公演のみです(一部公演を除く)。会場が愛知県芸術劇場でも、チケットの取扱いのない公演がございます。